



季節の変わり目になると、せき込んで、発作のようになります。



気管支喘息  
(ぜんそく)は

子どもの慢性病で最も多いもので、100人に6〜7人とされています。原因は、完全には明らかになっていませんが、環境と遺伝の両方が関与していると考えられています。

肺を刺激する物資(ウイルス、細菌、ダニ、ハウスダスト、タバコの煙、空気汚染などに、遺伝的な素因のある人は、過敏に反応します。この結果炎症が起こり、長期間続くと、「気道の慢性炎症」となります。肺の空気を運ぶ管の壁が腫れ、筋肉の収縮が起こり、狭くなって空気の通過を妨げます。

吸う息は大丈夫です

## ぜんそく・・・季節の変わり目に発作

が、息を吐くのが苦しくなります。息を吐くときに気管からヒューという音が出ます。また、粘液がたまりゴロゴロ、ゼイゼイという音がします。通常は2〜3日で軽快しますが、繰り返し起こる発作が特徴です。

発作は、季節の変わり目の5〜6月と9〜10月に起こりやすくなります。この時期に急にせき込み、呼吸が苦しくなり、ゼイゼイ、ヒューヒューとなったら喘息の可能性がります。

長期の治療が必要なものは、月に1〜2回以上発作が起こる場合です。現在は良い薬があります。成長とともに軽くなるか、

治療が可能です。

〈水戸市中丸町の平野こどもクリニック院長・

平野岳毅〉



子育て相談室